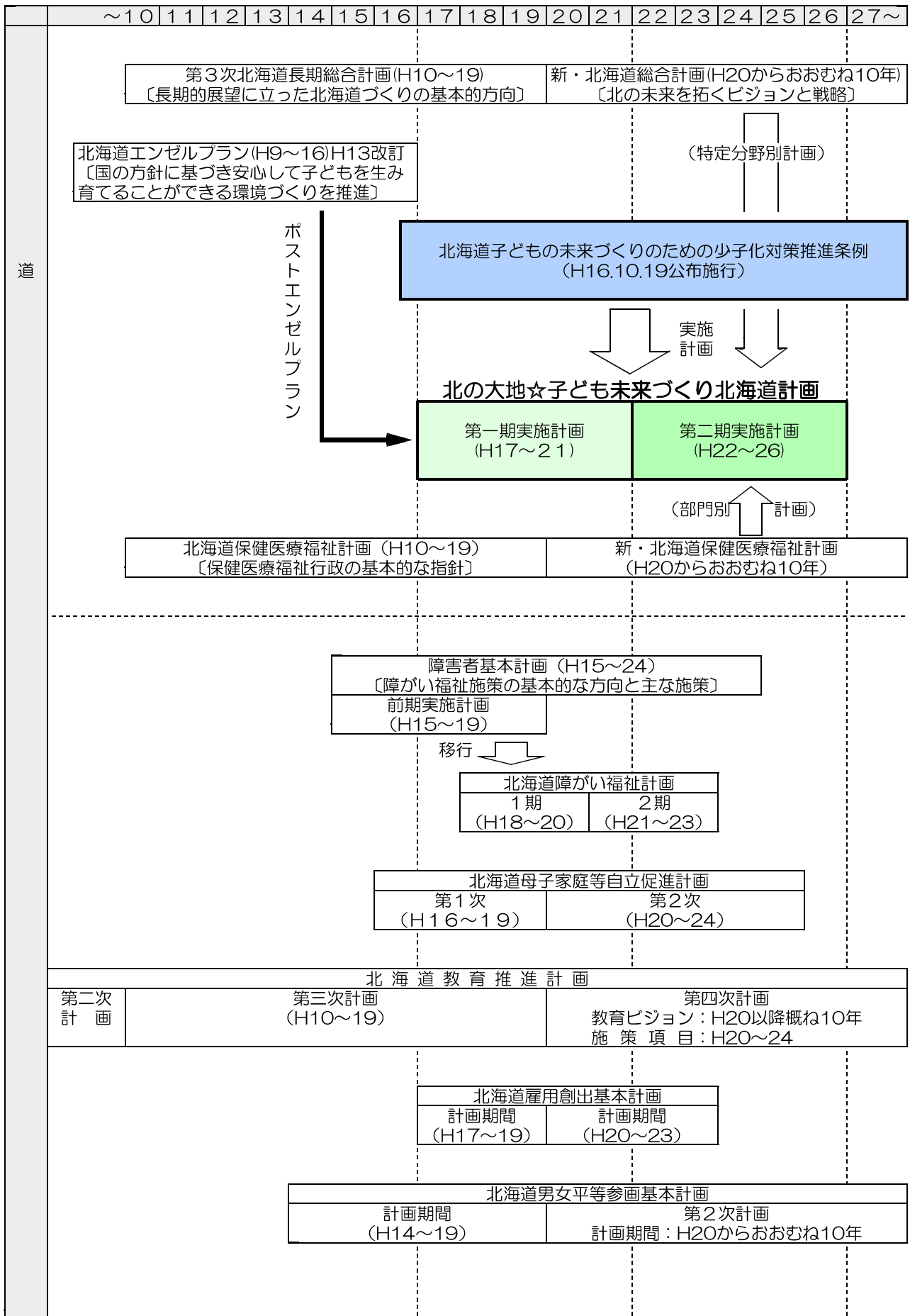
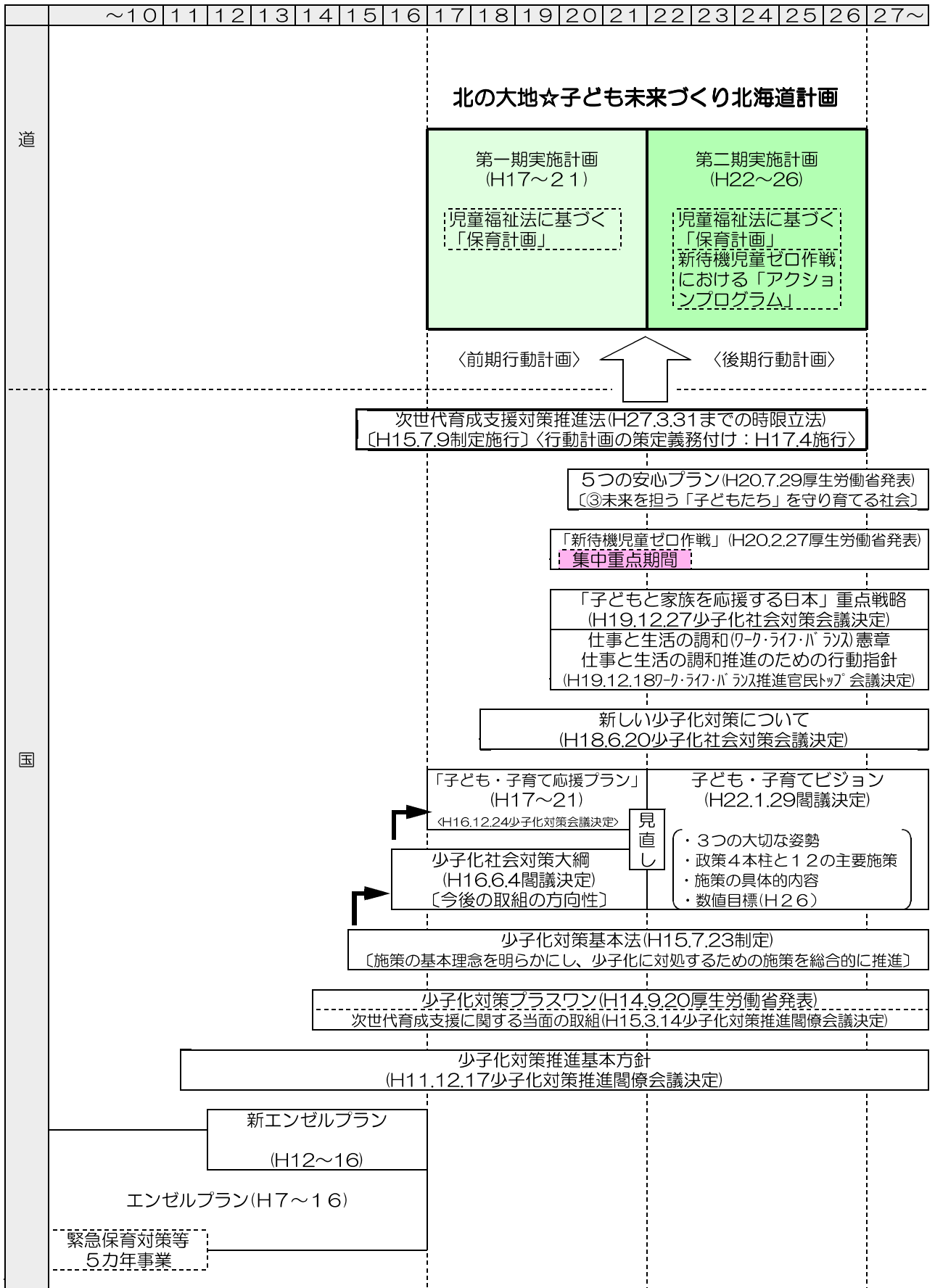


【図表2：国及び道の計画との関係】





第2 本道の少子化の現状

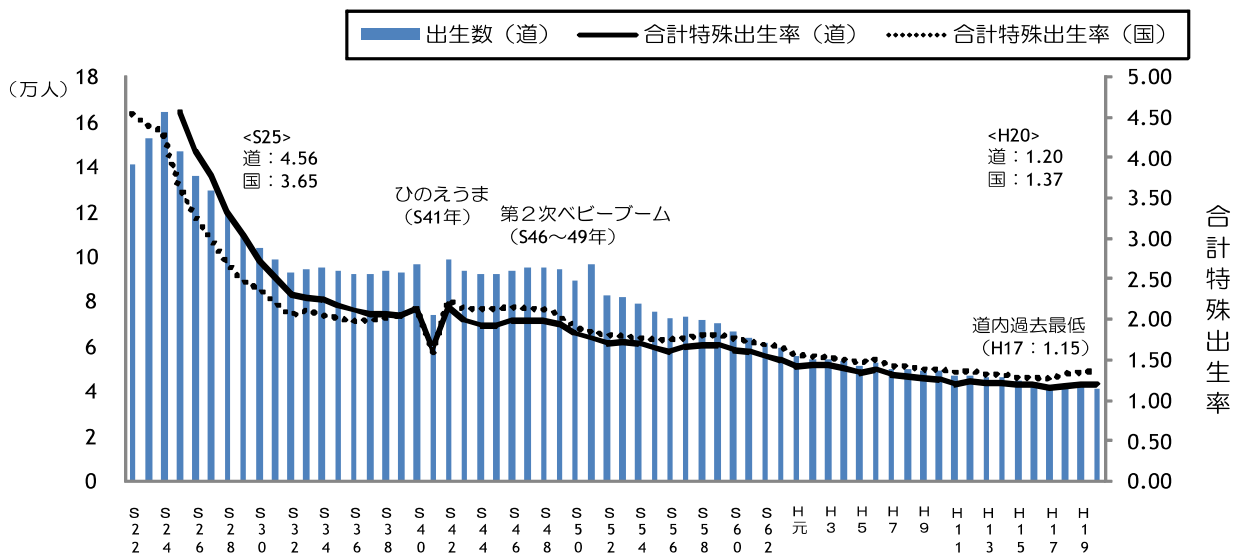
1 少子化の動向

①出生の動向

■少子化の進行

本道の出生数は昭和50年頃を境に減少傾向にあり、昭和40年代後半の第2次ベビーブーム時には年間約10万人の子どもが生まれていましたが、平成20年には約4万人にまで減少しています。また、合計特殊出生率は昭和42年から全国平均を下回っており、平成17年には1.15（全国1.26）まで減少し、その後、平成20年には1.20（全国1.37）まで改善されたものの、東京都に次いで2番目に低い状況にあります。

【図表3：北海道の出生数と合計特殊出生率の推移】



(厚生労働省「人口動態統計」)

◎ 道内市町村の出生の状況

平成15年から平成19年までの平均の合計特殊出生率は、道内では最高が別海町及びえりも町の1.85、最低が札幌市の1.01と地域的な差異があり、全道平均(1.19)を下回っているのは、22市町村となっています。

平成10年から平成14年までと平成15年から平成19年までの平均を各市町村別にみると、6割以上の市町村で低下している状況です。

〈H15～H19平均合計特殊出生率〉

◆上位5市町村：別海町・えりも町1.85、上富良野町1.80、足寄町1.74、猿払村1.73

◆下位5市町村：札幌市1.01、小樽市・江別市1.04、当別町1.07、占冠村1.09

(厚生労働省「人口動態統計特殊報告」)